

## 令和3年度 卒業証書授与式 校長式辞

(普通科59期生 理数科51期生)

ここ矢の原の地にも、一雨ごとに確かな春の足音が聞こえてきます。

本日ここに、令和3年度 島根県立松江南高等学校 卒業証書授与式を迎え、ただ今、258名に卒業証書をお渡しすることができました。卒業生の皆さん、保護者・ご家族の皆様、誠におめでとうございます。在校生、来賓の参列が叶わなかったのは誠に残念ですが、3年間見守ってくださったPTAを代表して、会長・石松俊之様のご臨席を賜りお言葉を頂戴します。石松様、誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さん、南高での3年間を振り返ると、どんな場面が浮かんできますか。勉強、部活動、学校行事、そして仲間の顔。思わず笑みのこぼれるものもあれば、悔しさ・ほろ苦さの伴う記憶もあるでしょう。

今年度、本校は開校60周年を迎えました。記念式典を前に懸命に準備する生徒会や文化部の下級生達、そして前夜遅くまで声を掛け合って配信テストを繰り返す先生方を見ながら、私はある場面を思い出していました。10年前に立ち会った開校50周年式典です。20期卒業生の社会学者・玄田有史先生が記念講演の中でおっしゃった言葉が、困難にぶつかるたびに浮かぶのです。皆さんも聞いたことがあるでしょうか。

**「壁にぶつかったら、とりあえず壁の前でウロウロしてみることだ。」**

**「誰かが助けてくれるかもしれないし、そのうち壁が勝手に崩れるかもしれない」**

偶然ですが、前校長・津森敬次先生からいただいた祝詞にも「すべての壁は扉である」という、皆さんへの励ましが綴られていました。

これからも、皆さんの前には様々な壁が、あるいは壁に見えるものが立ちはだかることでしょう。簡単には越えられず、悔しさやほろ苦さを味わい、時には自己嫌悪に苛まれることもあるでしょう。しかし、よく見ると、壁の前にいるのはあなた一人ではなく、うろろうするあなたの横で、一緒にどうにかしようとする誰かがきつといます。いえ、あなた自身が、手をさしのべる側かもしれません。仲間と共に、山あり谷ありの3年間を乗り越えてきた皆さんには、人を助け、支える力も十分備わっていると私は信じています。

今日はもう一つ、皆さんと分かち合いたい言葉があります。以前勤務した学校で出会ったその強烈な言葉とは・・・「ギターは弾かなきゃ音が出ない！」 ご存じですか？ エレキの神様といわれ昨年世を去った寺内タケシさんの言葉です。道を極めたレジェンドが、コンサートの最後に、高校生に向けてこうおっしゃったのです。

**「何十年もギターをやってきて、たった一つだけわかったことがある。それは『ギターは弾かなきゃ音が出ない』ということだ。以上！」**

さあ、皆さん。新たな世界への出発です。挑戦も失敗も葛藤も、ひっくるめてあなたの大切な軌跡です。世の中は、弾いてみなきゃわからない、やってみなけりゃわからないことだらけ。皆さんの可能性はまだまだ開拓の途上です。好きな道やあなたが為すべきことに志を抱き、挑み続けてください。

新型コロナという未曾有の災禍に加え、世界情勢は一気に緊迫の度合いを増しています。これだけ科学技術が発達し、世界が瞬時に結ばれる時代にあってもなお、子どもたちが家や学校を追われ、ひたすら逃げ惑わなくてはならない現実には、苦しさや無力感を禁じ得ません。それでも、私たちは進んでいかなくてはなりません。「**まず一歩**」そして「**一歩、一歩**」です。皆さんの南高での学び、そしてこれから待っている新たな学問や素晴らしい出会いは、あなた自身を幸せにし、あなたの周りも幸せにするためのものであってほしいと、心から願います。

改めて、卒業生の皆さん。最上級生として、この前例のない日々をよく辛抱し、前を向き、後輩の手本となって歩んでくれました。私が共に過ごした時間はわずか1年ではありますが、皆さんの存在にどれだけ救われたかわかりません。登下校や掃除の時間などの何気ない会話、朱雀祭や部活動で垣間見た笑いや涙。もっと一緒に過ごしたかったと、一抹の寂しさが湧いてきます。

保護者の皆様

家ではきっと、学校では見せないお子様の姿があったことでしょうか。不安や悔しさに泣いているとき、じっとその背中を見守ってこられたことと思います。今日までのご苦労と深い愛情に、心からの敬意を表します。寄宿舎生活を送った人、遠距離通学を続けた人たちも、初めての体験を通して、自分を支えてくれる存在のありがたさをかみしめていると思います。保護者の皆様には、どんなときも学校と手を携えて歩んでくださり、ありがとうございました。

最後になりましたが、本日お招きできなかった地域の皆様、旧職員や小中学校などの懐かしい先生方へ。この若者たちに多くの刺激とチャンスを与え、育ててくださったことに感謝申し上げます。生徒のため、今できることを共に考え試行錯誤した日々が、いつか共通の財産となりますよう願ってやみません。

まもなくここ矢の原台は桜に覆われます。宍道湖の碧水を望む雄大な眺めと、鳥のさえずりに癒やされるこの校舎は皆さんのふるさとです。ご縁によって巡り合い、この地で結ばれた強い絆を胸に、新しい世界に羽ばたいてください。

普通科59期生、理数科51期生。皆さんの前途に幸多かれと祈り、はなむけの言葉といたします。

令和4年3月1日

島根県立松江南高等学校

校長 倉崎千草